会場には亡くなった方々の等身大パネルや生前に履いていた靴が並ぶ＝奈良市の近鉄奈良駅前

事故や犯罪で亡くなった30人

等身大パネルや靴を展示

命の重さ考えて

交通事故や事件で亡くなった人たちの等身大パネルや生前履いていた靴とともに命の尊さを訴える「生命のメッセージ展」が近鉄奈良駅前行基広場で開かれている。13日まで。

毎年11月25日～12月1日の「犯罪被害者週間」に合わせ、県や県警などが開催する「犯罪被害者支援県民のつどい」の一環。会場には30人の等身大パネルと靴が並び、そこに顔写真と遺族のメッセージが添えられている。

生駒市の当時奈良高専4年生だった児島健仁（けんと）さんは2000年5月、原付きバイクで登校中に2トントラックと正面衝突し、2週間後に亡くなった。18歳だった。

母親の早苗（さなえ）さん(70)は04年、健仁さんの同級生とともにNPO法人「KENTO」を立ち上げ、小中高生たちに命の大切さを伝える講演活動をしている。取材に「命の大切さを伝えることは、加害者を生まないこと、犯罪抑止になると思う。命の重さを感じてほしい」と語った。

パネルを熱心に見ていた奈良市のアルバイト、立岩一樹さん(17)は「7、8歳でなくなった人たちは今ごろ中高生になっていたはず。生きていたらなと思う」と話した。

展示は24日～27日、香芝市の市ふたかみ文化センターでも開催予定。問い合わせは県警本部（0742・23・0110）から犯罪被害者支援室へ。（竹中美貴）